

# 平成22年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

平成23年 4月

目指す学校像	日本人としてのアイデンティティを持った、世界で活躍する良識溢れる人材を養成する
重点目標	「心」「知性」「国際性」の3点を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系の確立

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価					
年度目標			年度評価		
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題
1	より高い学力養成を実現する学習指導力の向上	学年・教科の枠を超えた情報交換の場としての教科会・教科代表者会議の定期開催を実施し、児童の学力定着度を正確に把握する。	業間休み・放課後・長期休業を使った補習等や家庭学習奨励により、定着度が高まりつつある。	B	新指導要領実施に向け、家庭学習定着指導や学習プリントの内容等を精査しながら、教員間の意思統一を図り、さらなる指導力の向上を図る。
		研修・学習支援講習会等を実施し、意見交換を通じ互いの指導力向上の研鑽を促す。	教員間での授業見学等積極的に行われ、情報・意見の交換が活性化してきた。	A	
		前年の指導計画書や学習プリントなどを基に新教育課程に向けて資料の作成を行い活用する。	学年、教科によって作成が遅れた部分もあったが、おおむね活用されていた。	B	
2	小・中・高一貫教育体制の確立	中学に進学した一期生の様子(学習・生活)を把握し、小学校にフィードバックし、小学校での教育に生かした一貫教育体制の確立を図る。	中高教員を招き入れさらに、中高授業を見学、定期的な話し合いの場を設け、一貫教育の流れがほぼ確立されつつあるものの、まだ不十分である。	B	中高教員を招き入れさらに、中高授業を見学、定期的な話し合いの場を設け、小中高一貫教育の流れを各教育課程を超えた教員の交流等により確立を目指す。
		23年度よりの新指導要領実施を勘案し、小中高の一貫カリキュラムの構築を計る。	前年度より継続して大まかな枠組みを検討しており、まだ不十分ではあるがほぼ確立された。	B	
3	主体性の確立を目指した生活指導の実践	基本的な生活習慣を身に付けさせ、自ら進んで元気に明るく挨拶する習慣の確立を図る。	指導により多くの児童が身に付き始めているが、まだまだ不十分な点が見られる。	B	すべての児童が何らかの公共交通機関を、利用して登下校をしている。マナー、ルールを守れない児童がいるものの、昨年度に比較し公共交通機関でのマナー、ルールの順守する児童が増加したように思える。さらに基本的な生活習慣の確立とあいさつ・思いやりの心を育成することにより、マナー、ルールの遵守を図る。
		昨年度より始めた縦割り活動・ペア活動をさらに全校に発展させ、互いに協力し、他人を思いやる優しい心を育成する。	登校時の下級生への指導や業間休みや給食・清掃活動時等に積極的な声掛けをしたり、思いやる行動が見受けられた。	B	
		教職員は「共通理解」「共通行動」で実践指導を行う。	非常勤も含め、全教職員に共通理解事項の印刷物を配布し、実践することにより共通した指導ができています。	A	
4	国際理解教育の推進	日本人としてのアイデンティティを養うために、日本の伝統的な文化(礼儀、作法等を含む)の理解を図る。	授業の一環としての茶道や和食の作法講習等を通じて、日本の伝統的な文化の理解を深める教育を実践しているが、現状での理解度は浅い。	B	イマージョン授業や海外研修旅行を通じて、異文化理解への道筋はできつつあるものの、児童の理解度の浅さを克服できるような授業や講習内容について、まだ不十分であり検討が必要である。
		海外研修旅行を通して、語学力の伸長や異文化理解などを促進する。	当該学年の多くの児童は異文化を体験吸収し、国際人としての素養が身につけてきた。	A	
		英語授業のほか、音楽・図工・体育のイマージョン授業の基本体制を確立させ、教育の推進を図る。	英語に親しみ、英語好きになる児童が多くなり、高学年では指示等を理解し行動する姿が見受けられたが、確立には至っていない。	B	
5	三位一体教育(児童・学校・保護者間の理解促進)	学校の諸活動における趣旨説明を丁寧に行い、学校での統一した情報伝達を行い、保護者の理解を深めるよう努める。	保護者会や学校行事等の諸活動で説明を行い概ね理解は得られているが、一部にまだ不十分な面が見られた。	B	保護者への本校の教育方針に基づいた教育活動に関する趣旨説明・情報提供に温度差を感じる事が指摘され、改善要望の声がある。学校で統一した趣旨説明・情報提供が求められている。
		学年・学級間での情報伝達に対する差をなくすために教員間での報告、連絡、相談を密にし、情報の共有化をはかる。	概ね、情報交換・連絡はスムーズに進められ共有化が進んでいるが、まだ徹底していない部分もあり改善の余地はある。	B	

学校関係者評価
意見・要望など
子供たちの学力の定着と向上に向けて、さらなる授業のフォローアップが求められている。また、一部に学校の考え方と保護者の考え方(成績下位者への対応)に若干の差異がみられるので、改善を求められた。
小中高一貫教育の流れについては、23年度には二期生も進学するので、一期生のデータとともに活用し、指導システムを点検して、よりよい授業連携の構築を願う。また、中学校の授業見学に関する意見も寄せられている。
昨年に引き続き、「挨拶」「マナー」等の基本的な生活習慣については、保護者にも現状を話し、協力を得よう努める必要がある。
海外事情の不安定化に伴い、引き続き海外研修旅行については、危機管理、情報公開が求められる。実践するに当たっては、情報提供への十分な配慮と努力が必要である。